

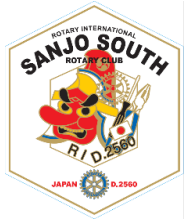


三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2025-2026
クラブテーマ

友に学び、ともに歩み、共に成長



2026. 5. 25

CLLS報告

No.2562

No.34



会長挨拶
三条南ロータリークラブ
会長

木村 譲

皆様、こんにちは。清々しい新緑の季節となりました。先週の例会でもお話ししましたが、私としての対外的な公式行事がひと段落し、少し晴れやかな気持ちでこの壇上に立っております。

さて、23日(土)は「クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー (CLLS)」が開催されました。以前は「地区研修・協議会」と呼ばれていたこのセミナーですが、名称に「ラーニング (学習)」と入っている通り、次年度のリーダーたちが集まり、ロータリーの理念や運営を改めて学ぶ貴重な機会です。

のちほど、参加された皆様から詳細な報告があると思います。今までとやり方を少しずつ変化していると思いますので、その変化を聞きたいと思っております。

また、明日26日(火)には、「家庭会合 (ファイアースイドミーティング)」が開催されます。

この「ファイアースイドミーティング」という名称は、かつてロータリーの創設者ポール・ハリスが、暖炉 (ファイアースイド) を囲んで親密に語り合ったことに由来しています。

ほかにも「座談会」「家庭集会」「情報集会」などのクラブによって様々な言い方があるようです。

そして、私自身の地区役員としての活動についても少し触れさせていただきます。現在、次年度の準備が着々と整い始めております。

地区の財団委員としての活動では、地区の各クラブから申請いただいたプロジェクトの内容をもとに、My Rotary 通じて国際ロータリーへ申請手続きを進めているところです。

海外へのプロジェクトに利用するクラブが2クラブあります。新潟RCと高田RCです。

新潟RCはミャンマーの病院への超音波診断装置の寄贈、高田RCはパキスタン・イスラム共和国への腹部エコー機器の寄贈です。

特別なこととしては、ミャンマーへの寄贈は米国財務省外国資産管理局 (OFAC) による規制対象に当てはまるので、その審査の書類も提出しています。

そのほか、亡くなった画家の展示会、中学生の部活補助として市立劇場にてコンサートの開催補助などのプロジェクトが申請されています。

再来週の6月6日(土)には、恒例の「7クラブ親睦ゴルフ大会」が控えております。

他クラブとの交流です。スコアも大切ですが(笑)、まずは皆様と心地よい汗を流し、親睦を深める時間を楽しみにしております。ご多忙中とは存じますが、ぜひ多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。

今年度の残り期間も、あと一ヶ月余りとなりました。

最後まで皆様と共に、有意義な活動を続けてまいりたいと思います。

本日の例会もどうぞよろしくお願いたします。

◆本日の出席：39名中27名

◆先週までの通算出席率：91.01%

◆先週までのメイクアップ：▶5/19 三条北RC へ野崎 正明さん、熊倉高志さん、峰島由紀子さん▶5/19 三条市共同募金委員会 へ 田中康之さん▶5/23 クラブ・リーダーシップ・ラーニング・セミナー (CLLS) へ (NASPA ニューオータニ) 吉沢栄一さん、布施純也さん、長谷川直哉さん、加藤一芳さん、江花正高さん、太田義人さん、藤田寛嗣さん

◆幹事報告：布施純也副幹事

▶「家庭会合」2026年5月26日(火)午後6時30分より▷於：三条ロイヤルホテル。出席対象の役員、委員長は御出席宜しくお願いします

ニコニコボックス

5/25 11,000円 今年度累計 550,000円

木村会長「CLLSに御参加の皆様、お疲れさまでした。報告を楽しみにしています」

吉沢エレクト「一昨日行われましたCLLSの報告をさせていただきます。宜しくお願いいたします」

野崎さん「吉沢次年度会長、報告宜しくお願いいたします」

田代さん 荒澤さん 銅冶さん 平松さん 石山さん

関さん 木村(雅)さん「BOXに協力します」

太田さん「BOXにご協力ありがとうございました」

よいことの
ために
手を取りあおう

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツツォ(イタリア)
第2560地区ガバナー 室賀 信宏(白根)
第4分区ガバナー補佐 青柳 修次(燕)
会長 木村 譲
幹事 加藤 一芳
S A A 関 博市

事務局
〒955-8666 三条市加町2-5-10
三条信用金庫本店内
TEL0256-35-3477
FAX0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL https://www.sanjo-minami.jp

クラブ・リーダーシップ・ ラーニングセミナー (CLLS) 報告

太田 義人 社会奉仕委員長

【第3セッション参加】

吉沢 栄一 会長(次年度)

【第1セッション参加】



—昨日、越後湯沢のNASAPAニューオータニで開催されました2026-27年度クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー (CLLS)

に参加してまいりましたので、ご報告いたします。

私吉沢と布施幹事、加藤さん、長谷川さん、藤田さん、太田さん、江花さん7名で参加致しました。

当日の流れは、午前中に全体会議、昼食後に各セッションに分かれてセミナーが行われました。

国際ロータリー会長オラインカ・ハキーム・ババロラ氏のメッセージ「持続可能なインパクトを生み出そう (Create Lasting Impact)」が示されました。奉仕活動を一度やって終わりではなく、その活動や関わりが地域や人に長く良い影響を残していくことを大切に、という考え方です。

また、富山ガバナーエレクトからは、地区目標として、「ロータリーで人生をより充実させよう」という方針が示されました。

その中で、特に重要視されていた点を共有します。

まず一つ目は**分区内で会長・幹事同士が年3回以上交流**することです。他クラブとつながり、情報交換し、お互いに学び合うことでクラブ運営の質を高めていこうという考え方でした。

二つ目は**会員数：2027年6月末で2,027名以上**（2025年6月末1,973名）

三つ目は**My Rotary 登録率80%以上の推進と、ラーニングセンターの活用**です。登録して終わりではなく、そこから学び、情報を得て、クラブ運営や会員自身の成長につなげてほしいという考えでした。

四つ目が、**ハラスメント防止の徹底**です。時代に合わせ、誰もが安心して参加でき、歓迎されるクラブづくりを進めていくことが強く示されました。

五つ目に**分区分再編を検討**です。会員数や地域環境の変化を踏まえ、将来的な地区・分区分のあり方について考えていく必要があります。その議論は地区だけではなく、各クラブにも当事者意識を持って考えてほしいという話がありました。

三条南ロータリークラブとしても、次年度テーマとして掲げている「**楽しみ、つながり、広げる**」を大切にしながら、会員同士、地域とのつながりを深め、次の世代にもつながるクラブづくりを進めていきたいと思っています。

そして、最後に富山ガバナーエレクトのお話しの中で、私が一番印象に残った言葉があります。

「みなさん、いい人でいてください。いいロータリアンでいてください。」

派手な目標や数字だけではなく、日々の行動や人との接し方を大切にすることが、結果としてクラブの活性化や地域への信頼につながるのだと感じました。

私自身もその言葉を大切にしながら、次年度会長として一年間取り組んでまいります。

皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



社会奉仕委員長として、湯沢で開催された CLLS に参加しました。

今回の CLLS で特に印象に残っているのは、午前中に行われた地区ラーニングファシリテーター・高橋秀樹パストガバナーによる「クラブの活性化について」という講演です。

高橋さんは新潟大学人文学部の教授で、歴史を専門に研究・指導されている方です。ご自身は会社経営者ではなく、ロータリークラブに多く所属している経営者の方々とは立場が異なるため、入会当初は「自分は場違いなのではないか」と感じていたそうです。

しかし、高橋さんには、以前ロータリー財団の資金による短期留学に参加された経験がありました。その留学の面接時に、当時のロータリアンから、現在であればハラスメントにあたるような質問を受けたことがあったそうです。その後、そのことについて、自分よりも20歳、30歳も年上のロータリアンから謝罪を受けた経験があり、「このような人がいる会とは、どのような会なのだろう」と興味を持ったことが、ロータリーに入会するきっかけになったとのことでした。

一方で、実際にロータリーに入会してみると、自分より年上の方々と昼にお弁当を食べる会であり、1回参加するだけでも3時間ほどの時間が必要で、さらに会費などの費用もかかります。ご自身の職業に直接的なメリットがあるわけでもなく、当初はロータリーに所属する意味を見出しにくい面もあったそうです。

それでも高橋さんがロータリーを辞めずに続けている理由は、「人とのつながり」にあるとのことでした。ロータリーで出会う人との関係や、世代や職業を超えたつながりこそが、ご自身にとってロータリーに所属する最大の価値であると話されていました。

現在、ロータリークラブでは入会者数は大きく変わらない一方で、退会者数が増えているという課題があります。その中で、会員一人ひとりがロータリーで得られる人とのつながりを大切に、互いに関心を持ち、関係を深めていくことが、クラブの活性化につながるのだと感じました。

今回の講演を通じて、ロータリーの魅力は単に奉仕活動や例会への参加だけにあるのではなく、そこで出会う人との関係性にあるのだと改めて考えさせられました。社会奉仕委員長として、今後の活動においても、地域への奉仕だけでなく、会員同士のつながりや信頼関係を大切にしながら、クラブの活性化につながる活動を意識していきたいと思えます。



江花正高 青少年奉仕委員長

【第4セッション参加】

国際ロータリー第 2560 地区
2026~27 年度クラブ・リーダ
ーシップ・ラーニングセミナー
(CLLS)の青少年奉仕委員会・ロ
ーターアクト委員会に参加しま
した。13 時より各セッション会
場にて開催されて、



- ①インターアクトについて
- ②RYLA(ライラ)
- ③青少年交換委員会
- ④ローターアクト委員会

上記4つの基本方針・活動内容についての報告、ま
た2026-27年度の活動予定について聞いてきました。

4つの活動についての取組み内容を詳細に聞く事が
出来て、大変勉強になりました。

(高校生が台湾との交換留学やカナダ・ドイツへの留
学、青少年フォーラムなど)

また、次世代(学生・社会人に対しての素晴らしい取
組み)への育成に力を入れている事などを南ロータリー
クラブでも活かせるよう取り組んでいきます。

藤田寛嗣 米山奨学委員長

【第6セッション参加】



国際ロータリー第 2560 地
区 2026~27 年度
クラブ・リーダーシップ・
ラーニングセミナー(CLLS)に
参加して来ました。

会場は、湯沢にあるNASPAニューオータニでした。
高速を使って三条より1時間弱で着きました。

湯沢町が会場ということもあり、自然(緑)も感じつ
つ良い雰囲気でした。

前半の全体会議では、室賀ガバナー様の挨拶から始
まり、富山ガバナーエレクトより次年度の運営方針や
目的などを聞きました。

講演では、地区ラーニングファシリテーターの高橋
様より「クラブの活性化について」話されました。

自分の若い頃のロータリーについての話をしていた
だけ、少し笑いありの話で面白く楽しい講演でした。

後半は、各セッションに分かれて意見交換の時間で
した。

私は、第 6 セッションの米山記念奨学委員会に参加
しました。

米山記念奨学会の歴史(74 年)、日本のロータリー独
自の事業、日本で学ぶ外国人留学生を支援、世話クラ
ブ・カウンセラー制度で交流を重視する「人を育てる事
業」、寄付金の状況、巣立った米山奨学生の事など学び
ました。

その後 6 班に分かれて、グループディスカッション
でした。

テーマは

- ①米山記念奨学委員長としての役割は?
- ②米山記念奨学委員長になって第一に取り掛かることは?
に、ついてでした。

他のクラブは、委員長とカウンセラーの役割が別々だそ
うです。

なので、いろいろな意見が出ました。

奨学生との関わり方、ハラスメントの気を付け方、米山
記念奨学生という奨学金の発信の仕方、寄付金のお願い
(説明)して理解してもらう。

私は、初めて委員長兼カウンセラーをするので今回のセ
ミナーとセッションで学んだ事を活かして、今回受け入れ
てる奨学生(チャーさん)のサポートやケアをして行こうと
思います。

クラブの皆様も寄付金のご協力よろしくお願ひします。



2026～2027年度

クラブ会長主要目標

三条南ロータリークラブ会長 吉沢 栄一

2026-27 三条南ロータリークラブのテーマ

楽しみ、つながり、広げる

～クラブの魅力を高め、60周年へつなぐ～

まずはロータリーを楽しみ、会員同士のつながりを深め、その力を地域社会への奉仕に活かします。

クラブ内の活気と魅力を高め、新たな仲間を迎え入れ、持続的な発展へとつなげます。

60周年に向け、これまでの歩みを大切にしながら、次世代へつなげるクラブづくりを進めてまいります。

クラブ運営方針

- ・楽しさを実感できる例会づくりを行う
- ・会員同士のつながりと親睦を深める活動を行う
- ・クラブの活動を発信し、魅力の見える化を図る
- ・新規会員の増強と入会後のフォローを強化する
- ・地域社会への奉仕(特に次世代への支援)を実践する
- ・60周年に向けた準備と機運づくりを進める

6月のお祝い

◆会員誕生

熊倉高志さん
太田義人さん
星野健司さん
加藤峰孝さん

◆配偶者誕生

長谷川直哉さんご夫人
太田義人さんご夫人
田村隆雄さんご夫人
永井篤利さんご夫人

◆結婚記念

木村雅也さんご夫妻
佐々木常行さんご夫妻
平松修之さんご夫妻
大湊秀夫さんご夫妻
藤田寛嗣さんご夫妻



おめでとうございます！

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。